

## 海難救助出動状況と主な出動事案の概要

昨年一月～十一月までの海難救助出動は三五七件に達し、二八七人の人命救助に関わりました。

出動した救助船は延べ二、五二六隻、出動した救助員は延べ九、九〇九人に達しています。

これを昨年同時期と比較すると、出動件数で三二件増加し、人命救助者数で二八人の増となりました。

出動した救助船は延べ二〇七隻の増、出動救助員は延べ二、四四二人多くなっています。

暖かい時期はプレジャーボートや人身事故が多く、寒い時期になると船舶事故、なかでも漁船の海難が多くなる傾向にありますので、漁業関係者の皆様にはくれぐれも注意していただきたいと思います。

以下に、七月以降に提出していただいた海難救助出動報告書から、出動の事案をいくつか紹介します。

### ◆青森県平内町救難所

平成十七年六月二日午後五時過ぎ、漂流している無人の漁船が発見された。この漁

船は一人乗りでシャコ刺し網を積んで出漁

したことが仲間の漁船により確認されており、海中転落の可能性があることから、海

上保安部や警察、消防等の関係機関に通報するとともに搜索を開始した。折からの強

風と高波により、サーチライトを使った搜索

は難航、午後十時二十分にいったんこの日の

搜索を打ち切った。

翌日から七日間延べ三八九人、八七隻を動

員して組織的に大がかりな搜索を行ったが行

方不明者を発見できなかった。

### ◆秋田県船川救難所

平成十七年六月二十七日午前十一時過ぎ、一人乗りの漁船が出漁したまま帰港時

間になっても帰らないとの連絡が家族から

漁協を通じて救難所に寄せられた。

連絡を受けて午前十一時三十五分消息不

明漁船の搜索活動を開始し、翌二十八日の午後二時まで延べ二六隻の救助船により搜

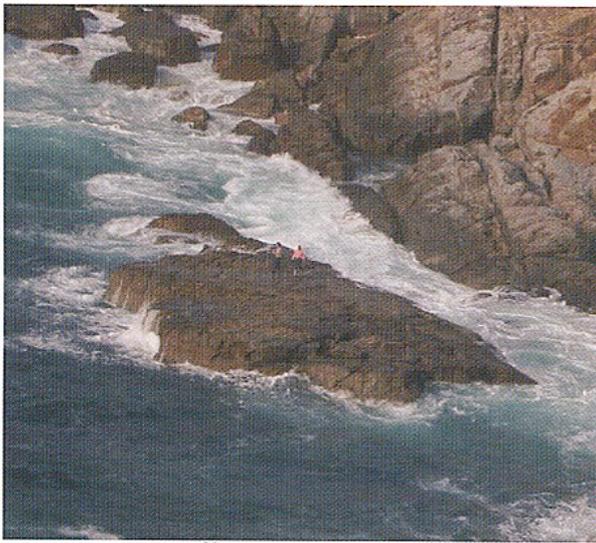
索するとともに、陸上からも搜索したが発見できずにいたところ、漁を終えて寄港する途中の他の地域の漁船が、発煙筒を焚いて救助を求めている漁船を発見、消息不明の漁船は無事救助された。

#### ◆大分県蒲江救難所

平成十七年七月十七日午前十一時四十分頃、海水浴に来ていた母子が高波により沖に流されているので救助出動願いたいとの要請が佐伯海上保安署から入った。要請を受けて救助船二隻と救助員七名で現場に向かい搜索していたところ、沖に流された母子を目撃し救助に向かった男性一名も沖に流されているとの連絡が入った。継続して搜索していたところ、流されていた男性を発見し、無事救助した。なお、母子はサーファーにより無事救助された。

#### ◆和歌山県紀南西部救難所

平成十七年六月六日午後四時頃、救難所員は、岩場で釣りをしていた男性二人が、潮が満ちてきた同岩場に孤立しているとの連絡を目撃者から受けたので一一八番通報したところ、田辺海上保安部から救助要請があった。当時は波が高い状況であったが、自己所有の小型船に消防隊員を乗せて救助



岩場に孤立した釣り人

に駆けつけたところ男性二人は救命胴衣をつけておらず、救助船が見ている前で高波にさらわれ、海上に投げ出された。一人は自力で岸に泳ぎ着いたが、もう一人は波にのまれ、うねりで岩に打ち付けられる危険があるため、船のスピーカーで磯に近づかないように呼びかけ続けるとともに、磯波で大きく動揺し、操船困難な中、救命用具を漂流者至近に投げて無事救助した。

#### ◆北海道厚岸救難所

平成十七年八月三日午前二時三十分頃、二名乗りの刺し網漁船が操業を終えて寄港途中、居眠りにより座礁した。釧路海上保安部から連絡を受けた救難所は救助船「しよーりゅう」と「あさかぜ」に排水ポンプ、曳航索などの救助器材を積み込み、救助に向かった。

現場は岩礁海域である上、濃霧で磯波も

高く「しよりりゅう」は接近することができないうので指揮船となり、「あさかぜ」が座礁船に接近して乗組員二名を救助後、座礁状況を確認した。その結果、座礁船に大回しロープを取り付けて、曳航救助することとなり、「あさかぜ」が曳航索をとりつけ、十二時四十分曳航を開始したところ離礁に成功したので、厚岸港まで曳航救助した。現場は濃霧の岩礁海域だったため、一連の救助活動は二次災害に十分注意しながら行われた。

#### ◆京都府宮津・与社救難所

平成十七年八月十三日午後一時頃、宮津市天橋立海水浴場で女性一名が乗ったビニールボートが風で沖に流された。これを目撃した同僚の男性三人が浮輪等を用いて救助に向かったが、全員戻れなくなった。監視員が一八番通報したことにより、巡

視艇と救難所の救助艇スーパーシーガルIIが救助に向かい四人全員を無事救助した。

#### ◆三重県紀南地区

##### 海難救助連絡協議会救難所

平成十七年八月三十一日午後一時頃、熊野市鬼ヶ城の千畳敷へ釣りに来ていた男性一名が高波にさらわれた。波が高く磯に上がることができずに漂流しているところを観光客が発見、通報を受けて救助船「第二早苗丸」と「くまの号」が荒天下出動した。

現場は、雨と高波で視界が悪かったが適切な搜索活動により速やかに発見し救助することができた。救助された男性は、十分近く救助を求めて漂流していたため、浮いているのがやつの状態で、自力で救助船に掴まる力も無く、救助があと数分遅れていけば危ない状況であった。

#### ◆鳥取県岩美町救難所

平成十七年八月三日午後八時三十分頃、朝方、出漁したまま戻らない一名乗りの漁船の家族から搜索の依頼が寄せられた。救難所では一一八番通報するとともに、出漁中の救助船三隻に対し搜索を指示、搜索隊を編成するとともに対策本部を設置して搜索していたところ、いか釣り中の当該漁船を発見した。

#### ◆沖縄県渡名喜救難所

平成十七年八月九日午前四時頃、まぐろ延縄漁に出漁し、漁場向け航走中の三名乗組みの漁船が渡名喜村入砂島沖で座礁し転覆した。船長から連絡を受けた家族からの救助要請を受け、救助船三隻が出動して午前八時頃、乗組員全員を無事救助した。



乗揚げ転覆漁船

◆千葉県小湊救難所

平成十七年九月一日午前六時三十分頃、鴨川市内浦湾で釣りをしていた二人乗りのボートが横波を受けて転覆、乗っていた二人が海中に投げ出された。

これを目撃した人から救難所に通報があ

り、直ちに所員を招集して三班に分け、海陸から救助に向かった。

現場は岩礁が多く点在し、磯波が立つ海域で、海を知っている地元の方は近づかない海域だったので、救助船は遭難者に接近することに困難を極めたため、慎重に操船し、救助に成功した。遭難者は救命胴衣をつけているものの、衣服が水を含み浮いているのがやっとの状況であった。

◆熊本県五和救難所

平成十七年九月十七日午後九時十五分頃、警察官に職務質問を受けた泥酔者一名が海に飛び込み行方不明になったとの通報と捜索要請が救難所にあり出動した。午後九時五十分現地に到着し、海上保安部や消防本部と合同で翌日の午前一時頃まで捜索したが夜間のため難航、いったん解散した。

午前六時に再び集合し、午後三時頃まで

捜索したが、発見できなかった。翌日になって自力で這い上がり無事であったことが判明した。



真剣な表情で打ち合わせ